

1990年事業所における健康相談実施状況調査

従業員のプライバシーを保護すること	予防活動を行うこと	具体的に何から手をつけたら良いかわからない	他の業務が忙しくてメンタルヘルスの予防・対応策まで行うこと	その他 ()	回答者数
62 (58.5)	28 (26.4)	13 (12.3)	16 (15.1)	7 (6.6)	106 (100.0)
37 (60.7)	29 (47.5)	10 (16.4)	11 (18.0)	1 (1.6)	61 (100.0)
2 (66.7)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
101 (59.4)	58 (34.1)	24 (14.1)	27 (15.9)	8 (4.7)	170 (100.0)

表60 メンタルヘルスに関する的確に対応してくれる病院の把握

把握している	78 (38.8)
的確ではないが把握している	79 (39.3)
把握していない	29 (14.4)
無回答	15 (7.5)
計	201 (100.0)

VI 看護場面で困ったときの援助者

看護場面で困ったとき（運営方法、個々のケースへの対応、集団教育のすすめ方、病気の知識）に、適切な援助をしてくれる人が社内、あるいは社外にいるか。またそれはどのような立場の人であるかを尋ねた。

1 業務の運営方法

業務の運営方法について、困ったとき適切な援助を与えてくれる人の有無について、まず産業看護に従事する以前に保健所・市町村役場・病院・診療所勤務経験別にみると、勤務経験あり群は勤務経験無し群に比べて適切な援助をしてくれる人の割合が少ない。しかし勤務経験有り群の方が、同僚の看護職、社外に適切な援助をしてくれる人がいる割合が多い。また勤務経験有り群の方が、医師に適切な援助を

表61 業務の運営方法で困ったときに適切な援助をしてくれる人の有無(複数回答), 産業看護従事以前の経験の有無別

	上司の看護職	同僚の看護職	部下の看護職	医師(非常勤も含む)	医療関係者以外の管理者	社外	回答者数
産業看護以外の場所での経験有り	39 (30.5)	49 (38.3)	10 (7.8)	52 (40.6)	74 (57.8)	14 (10.9)	128 (100.0)
産業看護以外の場所での経験無し	16 (55.2)	9 (31.0)	3 (10.3)	18 (62.1)	15 (51.7)	7 (24.1)	29 (100.0)
回答者数	55 (35.0)	58 (36.9)	13 (8.3)	70 (44.6)	89 (56.7)	21 (13.4)	157 (100.0)

表62 業務の運営方法で困ったときに適切な援助をしてくれる人の有無, (複数回答), 業務別

	上司の看護職	同僚の看護職	部下の看護職	医師(非常勤も含む)	医療関係者以外の管理者	社外	回答者数
診療介助業務に携わっている	40 (39.2)	40 (39.2)	11 (10.8)	51 (50.0)	52 (51.0)	10 (9.8)	102 (100.0)
診療介助業務に携わっていない	15 (28.3)	16 (30.2)	2 (3.8)	18 (34.0)	36 (67.9)	11 (20.8)	53 (100.0)
無回答	1 (33.1)	2 (66.7)	0 (0.0)	1 (33.1)	1 (33.1)	0 (0.0)	3 (100.0)
回答者数	56 (35.4)	58 (36.7)	13 (8.2)	70 (44.3)	89 (56.3)	21 (13.3)	158 (100.0)

してもらっているという意識が低い(表61)。

次に診療介助に携わっている群と、いない群とを比べると、診療介助に携わっている群は、医師、医師以外の管理者が、困ったときに適切な援助をしてくれる人であると答えているが、診療介助に携わっていない群は、医療関係者以外の管理者が困ったときに援助してくれる人であると答えている(表62)。

2 個々のケースへの対応

個々のケースへの対応について困ったとき適切な援助をしてくれる人について、産業看護従事以前の(保健所・市町村役場・病院・診療所)勤務経験別にみると、勤務経験がない看護職は、上司の看護職、医師をあげている。しかし勤務経験のある看護職は、部下の看護職、医療関係者以外の管理者をあげている。これは、勤務経験者の方が年齢、職位ともに高いことが影響している(表63)。

次に診療介助業務に携わっているか否かという、業務別に、適切な援助をしてくれる人の有無を尋ねたところ、診療介助業務に携わっている群は上司の看護職、同僚の看護職、部下の看護職、医師等の職種をあげている。その中で医師と答えている割合が一番高いが、最も特に診療介助業務を行っていない群に比べて上司の看護職と答えている割合が高い。一方、診療介助業務に携わっていない群は医療関係者以外の管理者や社外に適切な援助をしてくれる人がいると答えている(表64)。

3 集団教育のすすめ方で困ったときに適切な援助をしてくれる人の有無

集団教育のすすめ方で、困ったとき適切な援助をしてくれる人について、産業看護従事以前の（保健所・市町村役場・病院・診療所）勤務経験別にみると、勤務経験がない群は、上司の看護職をあげている。同僚の看護職、部下の看護職、医師に関しては、どちらの群も差はない。勤務経験がある群は、医療関係者以外の管理者をあげている（表65）。

次に診療介助業務に携わっているか否かという業務別に、適切な援助をしてくれる人の有無を尋ねたところ、診療介助業務に携わっている群は上司の看護職、同僚の看護職、医師をあげているが、診療介助に携わっていない群は医療関係者以外の管理者や社外の人をあげている（表66）。これは、産業看護

表63 個々のケースへの対応について困ったとき適切な援助をしてくれる人(複数回答)、産業看護従事以前の経験の有無別

	上司の看護職	同僚の看護職	部下の看護職	医師(非常勤も含む)	医療関係者以外の管理者	社外	回答者数
勤務経験有り	39 (27.9)	60 (42.9)	11 (7.9)	97 (69.3)	40 (28.6)	39 (27.9)	140 (100.0)
勤務経験無し	19 (51.4)	16 (43.2)	2 (5.4)	30 (81.1)	8 (21.6)	13 (35.1)	37 (100.0)
回答者数	58 (32.8)	76 (42.9)	13 (7.3)	127 (71.8)	48 (27.1)	13 (35.1)	177 (100.0)

表64 個々のケースについて困ったときに適切な援助をしてくれる人の有無(複数回答)、業務別

	上司の看護職	同僚の看護職	部下の看護職	医師(非常勤も含む)	医療関係者以外の管理者	社外	回答者数
診療介助業務に携わっている	43 (37.7)	50 (43.9)	10 (8.8)	84 (73.7)	31 (27.2)	27 (23.7)	114 (100.0)
診療介助業務に携わっていない	15 (24.6)	24 (39.3)	3 (4.9)	42 (68.9)	17 (27.9)	25 (41.0)	61 (100.0)
回答者数	58 (33.1)	24 (39.3)	13 (7.4)	126 (72.0)	48 (27.4)	52 (29.7)	175 (100.0)

表65 集団教育のすすめ方で困ったとき適切な援助をしてくれる人の有無(複数回答)、産業看護以外の場所での勤務経験の有無別

	上司の看護職	同僚の看護職	部下の看護職	医師(非常勤も含む)	医療関係者以外の管理者	社外	回答者数
勤務経験有り	41 (35.7)	49 (42.6)	11 (9.6)	56 (48.7)	54 (47.0)	22 (19.1)	115 (100.0)
勤務経験無し	15 (53.6)	13 (46.4)	3 (10.7)	13 (46.4)	8 (28.6)	8 (28.6)	28 (100.0)
回答者数	56 (39.2)	62 (43.4)	14 (9.8)	69 (48.3)	62 (43.4)	30 (21.0)	143 (100.0)

表66 集団教育のすすめ方で困ったときに適切な援助をしてくれる人の有無（複数回答）、業務別

	上司の看護職	同僚の看護職	部下の看護職	医師（非常勤も含む）	医療関係者以外の管理者	社外	回答者数
診療介助業務に携わっている	43 (45.7)	44 (46.8)	12 (12.8)	51 (54.3)	35 (37.2)	16 (17.0)	94 (100.0)
診療介助業務に携わっていない	13 (27.7)	16 (34.0)	2 (4.3)	18 (38.3)	26 (55.3)	14 (29.8)	47 (100.0)
無回答	1 (33.3)	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.1)	1 (33.1)	3 (100.0)
回答者数	57 (39.6)	63 (43.8)	14 (9.7)	69 (47.9)	62 (43.1)	31 (21.5)	144 (100.0)

表67 病気の知識について適切に援助をしてくれる人の有無（複数回答）、産業看護従事以前の勤務経験の有無別

	上司の看護職	同僚の看護職	部下の看護職	医師（非常勤も含む）	医療関係者以外の管理者	社外	回答者数
勤務経験有り	29 (20.0)	60 (41.4)	12 (8.3)	122 (84.1)	5 (3.4)	52 (35.9)	145 (100.0)
勤務経験無し	16 (43.2)	17 (45.9)	2 (5.4)	30 (81.1)	3 (8.1)	19 (51.4)	37 (100.0)
無回答	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
回答者数	46 (25.1)	78 (42.6)	14 (7.7)	153 (83.6)	8 (4.4)	71 (38.8)	1 (100.0)

表68 病気の知識について適切に援助をしてくれる人の有無（複数回答）、業務別

	上司の看護職	同僚の看護職	部下の看護職	医師（非常勤も含む）	医療関係者以外の管理者	社外	回答者数
診療介助業務に携わっている	32 (27.1)	47 (39.8)	9 (7.6)	104 (88.1)	5 (4.2)	39 (33.1)	118 (100.0)
診療介助業務に携わっていない	13 (21.0)	28 (45.2)	5 (8.1)	46 (74.2)	3 (4.8)	32 (29.8)	62 (100.0)
無回答	1 (33.3)	3 (100.0)	0 (0.0)	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
回答者数	46 (25.1)	78 (42.6)	14 (7.7)	153 (83.6)	8 (4.4)	71 (38.8)	183 (100.0)

従事前の勤務経験の有無別と同様の傾向である。

4 病気の知識

病気の知識に関して適切な援助をしてくれる人について、産業看護に従事する以前に保健所・市町村役場あるいは病院・診療所で勤務した経験の有無別に見ると、勤務経験の有無に関わらず、医師と回答している割合が最も高い。勤務経験のない群は、上司の看護職、社外と答えている割合が高い（表67）。

次に、病気の知識に関して適切に援助してくれる人の有無について、診療介助業務に携わっているか否かによる業務別に見ると、診療介助業務に携わっている群は、医師が最も適切に援助してくれると答えている。また診療介助業務に携わっていない群も同様に医師が適切に援助していると答えているが、社外にいると答えている割合も高い（表68）。

Ⅶ 研修の受講回数とこれから学びたいこと

1 研修を受けたことの有無

産業看護に従事してから研修を受けたことの有無を尋ねたところ、9割近くが研修を受けたことがあると答えている（表69）。

表69 研修参加の有無

研修を受けたことがある	177 (88.1)
研修を受けたことがない	23 (11.4)
無 回 答	1 (0.5)
計	201 (100.0)

2 研修参加で形態と参加回数

a) 事業所が費用全額負担によるもの

勤務扱の研修参加で費用が事業所全額負担による参加回数は、5回以上が最も多く、次いで1回となっている。平均参加回数は4回（表70）。

表70 事業所が費用全額負担による研修参加回数

0 回	3 (1.5)
1 回	31 (15.4)
2 回	30 (14.9)
3 回	25 (12.4)
4 回	18 (9.0)
5 回以上	46 (22.9)
無 回 答	48 (23.9)
計	201 (100.0)
平 均	4.0回 (無回答を48除く)

b) 1部個人負担によるもの

研修参加費用が1部個人負担による参加回数は、a)と同様に1回が一番多く、次いで2回が多い。また無回答が多い。これは参加していないと考えられる。平均参加回数1.3回（表71）。

c) 全額個人負担によるもの

研修参加が全額個人負担によるものの参加回数をみると、1回が最も多く、次いで2回となっている。またこれも無回答の割合が高い。この無回答も参加していないのではないかと考えられる。このように